

## 病床機能の変更に係る書面協議の結果について

### 1 事案概要及び経過

- 医療法人社団蒼紫会森下記念病院は、2019年10月目途に急性期の一般病棟を、療養病棟への転換を計画した（現在ある急性期病床114床を急性期病床51床、慢性期病床41床とし、残りの22床を返還する計画）。
- 転換理由は、市内で長期療養を要する入院透析患者を積極的に受け入れることのできる体制を整え、腎不全に注力するため、2棟のうち1棟を平均在院日数の基準がない療養病棟へ転換したいと考えたためである。
- 当該病院の急性期から慢性期への病床転換について、相模原地域では慢性期病床は過剰であるため、地域医療構想調整会議での協議が必要だが、事前調整段階における当該病院の認識の錯誤もあり、第1回地域医療構想調整会議で協議できなかった。  
 しかしながら、早急に各委員の意見を集約する必要性が生じたため、これまでの病院側の様々な事前調整の状況を勘案し、会議開催に代わるものとして、書面にて意見を集約することとしたものである。

### 2 協議の結果

- 令和元年9月12日付けで書面協議を行ったところ、当該医療機関の病床機能の変更については、「異論はない」との結果となった。
- 結果については、委員及び当該病院に通知済

### 3 書面協議の際の主な意見

- 相模原市では透析患者の入院できる慢性期病院が不足している。
- 慢性期が過剰と認識されているが、立地条件によるところが大きいのではないか。  
急性期病床数を是正し、地域全体の病床数減につながる病床機能変更に問題はない。
- 今後、高齢者の透析患者の急増が見込まれる中、透析等の特殊機能を有する慢性期病床の地域ニーズは高まると思われる。

### 4 参考

＜相模原地域の病床の状況（平成30年度病床機能報告）※網掛けは過剰、△は不足＞

構想区域	病床機能区分	2025年の必要病床数(A)	2018(H30)病床機能報告結果(B)	森下記念病院の計画増減(C)	計画反映後(D)	必要病床数(A)との比較(過剰・不足)	
						計画反映前(B-A)	計画反映後(D-A)
相模原	高度急性期	808	642	0	642	△ 166	△ 166
	急性期	2,305	2,665	-63	2,602	360	297
	回復期	1,710	378	0	378	△ 1,332	△ 1,332
	慢性期	2,413	2,734	41	2,775	321	362
	休棟中等	-	313	0	313		
	合計	7,236	6,732	-22	6,710		